

この「防災総研 NewsLetter」は当研究所の教員、職員、研究員などの関係者が研究活動や最近の防災総研の動きなどについて語るものです。

発行：国士舘大学 防災・救急救助総合研究所 TEL：042-339-7191 〒206-0032 東京都多摩市南野2丁目11番1号

## 「日本の古典芸能「能」と防災」

21世紀アジア学部 教授

表 きよし



日本の古典芸能の1つである能は約700年という長い歴史を持っている。今日でも能楽堂と呼ばれる劇場で上演されており、入場料を払えば誰でも見ることができる。能楽堂で能を見たことがある人は、咳ひとつするのさえはばかれるような静まり返った空間に圧倒されたことだろう。まさに「幽玄」という言葉がふさわしい、厳かで美しい世界が展開されているのだ。

ところが、能が建物の中で上演されるようになったのは明治時代になってからで、それまで能の舞台は屋外に設けられていた。寺や神社の境内、各地の城、有力者の邸宅などに能舞台が作られたが、それらはいずれも屋外にあり、舞台を取り囲むように、また少し離れた建物の中から舞台を眺めるといった形で鑑賞されていた。舞台には屋根があるので多少の雨ならば何とかだったが、観客は雨に濡れるし、風雨が激しければ舞台の中も濡れてしまうので、催しが延期や中止になることも少なくなかった。

屋外に設けられた舞台は、災害と無関係ではいらなかった。舞台の奥以外の三方は壁がないのだから、雨に濡れるならまだしも、強風に襲われて崩壊してしまうこともあった。例えば、江戸時代後期の文政11年(1828)8月9日に長崎を台風が襲い、諏訪神社の境内に設けられていた能舞台が倒壊している。長崎と言えば「長崎くんち」という祭りが有名だが、これは諏訪神社の祭りで、江戸時代には祭りの終わりに必ず諏訪神社の舞台で能が行われていた。舞台がなくなったために、祭礼の能は五年間も中断を余儀なくされた。この台風は九州を通過した後に中国地方へ向かったようで、山口県下関の亀山神社の能舞台も破壊している。関門海峡を見下ろす高台に建つこの神社でも、毎年八月の祭礼で神事能が行われていた。こちらは商人たちの尽力で翌年に再建されたが、当時の人にとって能が大きな楽しみだった様子が感じられる。

台風による被害は江戸時代だけの話ではない。広島県宮島にある厳島神社の能舞台は、干潮時は砂浜の上に建っているが、潮が満ちるにつれて周囲が海となる風情に富んだ舞台である。戦国時代に毛利元就が寄進した舞台を江戸時代前期に再建したものとされ、重要文化財に指定されている。ところが平成3年(1991)9月27日から翌日にかけて西日本を通過した台風19号により、この能舞台は倒壊してしまった。屋根だけを残してほとんどの木材が海上に流失し、関係者により懸命な回収が行われたものの、修復にあたって再利用できた古材は65%だったという。私が初めて厳島神社を訪れたのはその2週間後で、長い年月を耐え抜いてきた能舞台と初めての対面となるはずが、その無残な姿を目の当たりにすることとなり、台風のおそろしさを痛感したのであった。

明治時代になって、能は能楽堂の中で上演されるようになった。江戸時代の能役者は幕府や藩に保護されていたが、明治維新により幕府も藩もなくなって生活に困窮したため、天候に影響されない活動の場を提供しようと、政界・財界の有力者が資金を出し合って東京の芝公園(今の東京タワー付近)に能専用の劇場を建設したのが始まりである。その後、能役者やその後援者によって次々と能楽堂が誕生することになる。

しかし舞台が建物の中に入ったからといって災害と無縁になったわけではない。大正12年(1923)9月1日の関東大震災は東京にあった9つの能楽堂に被害をもたらした。地震の揺れにより倒壊したのは2つだけだったが、各地で火災が発生したため焼失した舞台が多かった。能楽堂は演技の場としてだけではなく演能に用いる面・装束や小道具、先祖伝来の伝書の倉庫としても使われていたため、これらも焼失・破損してしまい、能役者にとってのダメージは相当なものだった。関係者の尽力で再建が進められたが、次に襲ってきたのは戦災だった。昭和20年(1945)に東京への空襲が繰り返されるようになると、再び多くの能楽堂が焼失することになった。

被災を免れた能楽堂で公演を行いながら能役者は能楽堂の再建に努め、今日では東京だけでも10を超える能楽堂で公演が行われている。客が来やすい場所に能楽堂を造ろうとすれば、地価の高さが大きな問題となる。そこで、単独の建物ではなく複合施設の中に能楽堂が設けられるケースも見られるようになった。観世能楽堂は銀座の商業ビル(GINZA SIX)の地下3階に設けられているし、渋谷のセルリアンタワー能楽堂もホテルやオフィスが入る高層ビルの地下2階にある。水道橋の宝生能楽堂はビルの1階にあるが上はマンションという構造になっている。こうなると、地震や火災などの際にどう避難するかが大きな課題となってくる。観客に高齢者が多いのが古典芸能の特徴でもあるので、優雅な古典芸能の劇場であっても防災は重要である。施設の運営者だけでなく、観客も避難経路を確認するなど身を守る心がけが必要な時代になっているように思われる。

表 きよし …… 早稲田大学大学院単位取得満期退学。国士舘短期大学講師・助教授・教授を経て2002年から国士舘大学21世紀アジア学部教授。専門は日本の古典芸能である能・狂言の研究。

してる?  
知ってる?

## 『関東大震災』

1923(大正12)年9月1日午前11時58分に相模トラフで発生した「海溝型」の巨大地震が引き起こした大災害で、地震の規模を示すマグニチュードは7.9と推定される。最大震度は現在の基準で7、南関東から東海地方に及ぶ広い範囲で甚大な被害を出した。東京や横浜などで建物の倒壊や大規模な火災が発生したほか、伊豆半島東岸や湘南地方を津波が襲い、箱根や丹沢などで土砂災害も発生し、死者・行方不明者は10万5385人と明治以降の災害で最悪の被害となった。犠牲者の約90%が地震直後に発生した火災によるもので地震火災の恐ろしさを見せつけた。また情報の混乱による虐殺事件も起きた。近代化した首都圏を襲った唯一の巨大地震で、地震防災対策や災害時の情報、被災者支援や復旧、復興対策などに多くの教訓を残した。今年は発生から100年の節目の年を迎える。





### はじめに

「私は、大丈夫。」

自分にとって都合の悪い情報を過小評価してしまう人間の特性には、名前がついている。正常性バイアスだ。私の専門分野の例を挙げてみよう。初めて出会った相手だったとしても「私は、大丈夫。コンドームをつけなくても性感染症に罹患なんてしないから。」と思い込んでしまう。好きな相手にノーといえなくても「私は、大丈夫。妊娠なんてしないから。」と目の前の起きるかもしれない悲劇から無意識に目を背けてしまう。

日頃、安全で安心な環境に生きていれば、まさか自分に危険な未来が訪れるとはなかなか想像しづらいだろう。

### 学校は未来に備える場

だから学校では、いつか訪れるかもしれない危険な未来に備え、子供達がより良い未来を生きるために、教科やいろいろな活動を通して事前学習をさせていると考えられる。例えば、デートDVの被害に遭わないように知識を与え、恋人との関係に悩んだ時に自己調整して、より幸せな未来が掴めることを期待する。心理学には「学習の転移」という概念がある。これはある学習が似たような他の状況に応用されることを指す。「デートDVの知識」のおかげで、実際のデートDV被害を避けられたら、それは知識の生活への転移だ。学校では、教室で学んだ知識や技能が、現実の世界に転移することを期待して、子供たちの学びの引き出しに数多く蓄えさせる。そうした知識を、いつ、どこで、だれと、どうやって使うのかという応用編は、十分に事前学習されないままに。

### 即興の共同がつくる未来

学習の転移は必ずしも教師が期待する場面で起こってくれるわけではない。例えば、国語が得意で、どんなに登場人物の心情理解に長けていたとしても、大人になって、人の良さそうな詐欺師の悪意を読み取れず、契約書に印鑑を押してしまう場合だってあるだろう。学校では、未来に備え多様な教科を教え、知識というツールを手に入れさせるけれども、未来に訪れる「本番」でどのツールを使うか、そのツールをいつどこで誰とどのように使うかは子供達自身に任されている。本当はツールを与えることよりも、こうしたツールの活用を身につけさせる方が何倍も大事なのだ。そして災害のような突発的な事態では、その場の他者との即興的な共同によって、そのツールを活用せざるを得なくなるだろう。

2011年の東北地方太平洋沖地震で、子供たちは予測もしなかった、危険な未来に出会った。突然の揺れに、うろたえたことだろう。そんな状況で「私は、大丈夫。死んだりしないから」などという正常性バイアスにとらわれず、「津波でんでんこ」（地震が来たら他人に構わずにでんでんバラバラに逃げるといふ教え）を活用し、高台に避難した事例は「釜石の奇跡」として知られている。

危険な未来に備えるためのツールとして「津波でんでんこ」を学んでいた子供たちは、誰かの指示を待つのではなく、でんでんこするかどうかをその場の即興で、周りと共同で主体的に判断したはずだ。教わったツールをどのよう

に使うのか、その瞬間の最善の策を選び取った勇気が、生死の命運を分けたのだろう。この子供達は学んだツールを仲間との共同で見事に使いこなしたといえる。

### 即興の共同を練習し続けよう

性教育も、防災教育も、より良い人生を生きるためにある。子供達には、訪れるかもしれない危険な未来に出会った時、学校で学んだ知識を転移させ、自分たちの命を守れるようになってほしい。ただし、学習の転移は、教師が一方的に願ってもなかなか起きるものではない。日頃の練習が必要だ。例えば、大切な相手に「避妊しよう」と言えるようになるためには、ひとりの想いの一方通行ではうまくいかない。その意思決定が二人の共同になるように勇気を持って働きかけられるようになる必要がある。そのためには日頃から教室で、勇気を持って仲間と共同する練習が必要だ。地震が来て、目の前の相手と共同し、その瞬間の最善の策が何かということ判断できるようになるためには、日頃から、勇気を持って仲間と即興で共同する練習が必要だ。

だからこそ、私は、教員養成の現場で、「即興の共同」を学生たちに繰り返し練習させている。仲間と一緒に知恵を持ち寄り、やり方を知らないことに取り組む勇気を育てている。学生たちは、初対面の仲間と勇気を振り絞って、共同しようとする。上手い下手ではなくて、挑戦することに価値があるとわかっているからだ。私は、そうした日々の積み重ねが、彼らの未来に出会う教え子達の自己決定に影響を与えるだろうと、学習の転移を期待している。知恵と勇気を持ち寄って、仲間と共同で、その瞬間の最善の策を探せるような子供達を育てられることを期待している。より安心で安全な人生になるように、幸せな未来を自己決定できる子供達が育つことを願っている。



即興の共同を練習する学生たち

#### 郡司 菜津美 プロフィール

2016年東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科修了。博士（教育学）。同年国士舘大学文学部教育学科専任講師着任、2022年より現職。専門は性教育指導、学習環境デザイン。ドローンの国家資格取得に向けて勉強中。

# 研究 Note 28

## 「関東大震災から100年次の震災時に情報をどう防災に生かすか」

～国土館大学防災・救急救助総合研究所・日本災害情報学会の共催シンポジウムから～

国土館大学防災・救急救助総合研究所 教授

山崎 登



### 1. はじめに

国土館大学・救急救助総合研究所と日本災害情報学会が共催する「防災シンポジウム」が、2023年（令和5年）3月21日、国土館大学で開かれた。今年には明治以降の我が国の災害としては最大の被害を出した関東大震災から100年という節目の年で、シンポジウムのテーマは「関東大震災から100年～次の震災時に情報をどう防災に生かすか～」であった。会場には防災の研究者や行政の防災担当者、それにメディアの関係者など140人が集まった。私はシンポジウムのコーディネーターを務めたが、議論の中身を紹介しながら、震災における情報面での課題を考えてみたい。

関東大震災では様々な流言飛語が飛び交って社会の混乱が広がり、食料品などの強奪や略奪、果ては虐殺事件まで発生した。



パネルディスカッション  
(国土館大学)

### 2. 震災時の情報を巡る課題

パネリストは以下の4人だ。

- ・関谷 直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授（社会心理学）
- ・福島 隆史 TBS テレビ解説委員（災害担当）
- ・山中 麗子 元東京消防庁玉川消防署長（消防行政や災害ボランティア）
- ・中林 啓修 国土館大学防災・救急救助総合研究所准教授（危機管理）

パネリストの話から、震災時の情報について論点が浮かび上がった。まず災害時の正確な情報の重要性とそれを確保することの難しさだ。関谷准教授から関東大震災では発生直後から朝鮮半島から日本に来ていた人たちにまつわる流言が飛び交い虐殺事件まで起きたことが当時の新聞記事とともに紹介され、社会の混乱に乗じた流言は最近のコロナの感染流行時にも「コロナにかかった時は26度から27度で（ウイルスが）死ぬからお湯を飲むといいとか、予防ができるとか、社会的に悪影響のある噂が流れた」として、今でも解決できていない問題だと指摘された。また関東大震災では新聞などのマスメディアが機能しなかったことから、「震災彙報という報告書が政府から出され、流言の予防だとか、仮設住宅や食料をどこに行けばもらえるかといった情報が伝えられた」が、それと同じようなことは東日本大震災でも起き「テレビや新聞やインターネットから情報は出ていたが、福島から広域避難をしている人たちに連絡がつかないとか、どこでどうしているかわからないといった状況が浮き彫りになり、チラシをポスターに貼ってコンビニや避難所に貼りました」と必要な人に必要な情報を届けることの難しさが報告された。

また福島解説委員からは「熊本地震では系列の放送局が2回目の震度7の本震の後に完全に停電し、動くはずの非常用発電機も誤作動で電力供給ができなくなってバックアップ機能が働かなかった」経験が紹介され、震災時には思いもかけないアクシデントに見舞われる可能性があり、それでも放送を出し続けて使命を果たす重要性が語られた。

さらに中林准教授からは、災害で異なる機関の情報を一つに結びつけて地図情報として提供するシステムを使ったところ、対策本部では名前が出ていない自治体が浮かび上がり、調査したら実際に被害が出ていた例が紹介され、大きな被害が出ている自治体ほど被害の報告が遅くなることもあり、そ

れを自衛隊などの防災機関がいかに早く把握して救援に向かうかが大きな課題だとわかった。

また山中さんからは「消防機関が震災時に最優先で行う活動は火災対応で、延焼火災を防がなければ人を助けることはできません」と消防の役割が強調され、そのためには火災の発生場所や延焼の状況、消火栓の使用可否、消防職員、団員の参集状況などの正確な情報をいち早く知ることの重要性が指摘された。

### 3. 正確な情報を生かすために

関東大震災の際の社会の混乱の背景には情報不足があった。当時まだラジオの放送は始まっておらず、マスメディアは新聞だけだったが、日刊の大きな新聞社17社のうち、倒壊をまぬがれたのは東京日々新聞、報知新聞、都新聞の3社だけで、しかもその3社も翌日に増刷版などで号外をわざわざ出ただけで、地震発生後3日間は新聞の空白状態となった。業務用に始まっていた電話も通じなくなり、情報の欠乏は社会不安を広げ、それが根拠のない流言飛語につながった面があるとみられる。

そうした状況を踏まえ、福島解説委員は「本社には吹き抜け部分がありましたが、東日本大震災後に100本以上の制振ダンパーを設置した」、また「敷地内にガソリンスタンドを設置した」と設備面での補強を進めたことを紹介し、「放送局として、あらゆる手段を駆使し、あらゆるルートを通じて、情報を伝え続けることが一番だと思っています」とメディアの覚悟を語った。また山中さんは消防機関や消防団に加え阪神淡路大震災以降に制度化されたボランティア活動や自治体、地域の防災リーダー、市民消防隊などの新しい取り組みが進められているとして、混乱の中でも着実に防災対策を進めていける態勢作りが進んでいることが強調された。

さらに中林准教授の「南海トラフの巨大地震を想定した自衛隊の総合防災訓練で様々な情報を地図上で重ねることによって、人命救助の焦点はどのあたりで、生活支援の焦点はどのあたりかを絞り込むことができる」と事前の訓練の成果を生かせる期待が語られた。

また関谷准教授からは東日本大震災の時に石油タンクが爆発したという流言が正しい情報が出された後もネット上で拡散した例から、「災害時の流言は放送局や公的機関が正しい情報を伝えても解消されるわけではなく、根本的なところは一人一人が災害時には流言の問題が起きることを自覚して対応しなければ解決できないと思う」と問題の難しさが指摘された。

### 4. おわりに

私は長くNHKで災害報道に係わり、災害と情報についての勉強もしてきたが、災害時に防災機関やメディアが正しい情報を伝え続けることの重要性とともに様々な情報をどのように受け止め、どのように対応していくかという社会の情報リテラシーを高めていく必要性を強く感じるシンポジウムとなった。防災教育の場でも情報リテラシーを高めるための教育が求められている。

#### 【参考】

『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 1923 関東大震災』（中央防災会議）

#### 山崎 登 プロフィール

元NHK解説委員（自然災害・防災・消防担当）、2017年から国土館大学防災・救急救助総合研究所 教授。国内外の災害現場を取材、調査し、平成30年 防災功労者内閣総理大臣表彰。



# 春季活動報告

# 2023年度の防災総研

防災・救急救助総合研究所では、小・中学生を対象に防災や救急救助（応急手当）の講演や講習をした際に配布するために副読本を作成しました。

講演や講習の内容を復習や、学校や家族で知識やノウハウを共有できるよう工夫しています。小学校高学年から中学生位を対象としていますが、広く防災や救急救助について学びたいという人たちにも適した内容となっています。

南海トラフの巨大地震や、首都直下地震など内陸直下の地震も起きやすくなっているとみられ、また強い台風や豪雨による洪水や土砂災害の深刻化も心配されています。この副読本は、学校、家庭、地域で防災訓練や防災教育などに活用されることで、防災力の向上に寄与できることを期待し、無償でダウンロードできるようにしました。

(<https://www.kokushikan.ac.jp/research/DPEMS/dokuhon/>)  
 (右のQRコードを読み込むと案内ページへリンクします)



副読本を使った防災学習 多摩市立豊ヶ丘小学校 (2023年3月10日)

## 総務

## 知ってほしい 国土館の防災対策

### 第10回

### 震災時の帰宅困難対策

今回から「知ってほしい国土館の防災対策」が再開となります。今回は、「震災時における本学園の帰宅ルール及び帰宅困難者へのルール」についてです。学生及び教職員が各キャンパスに滞在中、大震災等が発生し公共交通機関が不通となった場合は、下記のとおりに対応となります。

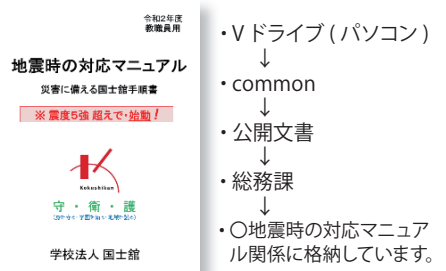
#### 1 帰宅者へのルール

| 項目       | 帰宅のルール   |
|----------|--|
| 帰宅のタイミング | 震災直後は、消火活動及び人命救助が優先されます。大勢が一斉に帰宅することにより道路が塞がれ、消防活動に支障をきたす恐れがあることから、企業等には一斉帰宅の抑制が求められています。帰宅のタイミングについては、余震の状況や行政からの帰宅抑制などを考慮し、各キャンパスの緊急災害対策本部が判断します。  |
| 帰宅方法等    | 公共交通機関不通の場合は、原則徒歩での帰宅とし、帰宅可能距離は原則20kmまでとなります。自宅までの距離が帰宅可能距離以上の方は、各キャンパスに留まることとなります。(夜間で停電している場合は、徒歩での帰宅を自粛させます)。<br>・同一方向の帰宅者を班編成し、集団で帰宅させます。(リーダーを決め、定期的に災害対策本部へ連絡させます)<br>・帰宅順は、各キャンパスから自宅までの距離が半径5km、10km、15km、20kmの順で出発させます。 |
| 帰宅の判断    | 帰宅の最終判断は本人の意思とし、各災害対策本部の許可を得るものとします。(「帰宅願届出書」を提出することになります。)  |
| 帰宅時の支援   | 徒歩で帰宅する際は、「災害時帰宅支援ステーション」(全都立学校、東京武道館も該当します。)を活用してください。帰宅者にトイレ、水、災害情報を提供します。コンビニ、ファミレス、ガソリンスタンド等で該当する施設には、「地震時の対応マニュアル」資料7⑨「災害時帰宅支援ステーション一覧」(52頁)に記載されているマークが表示されています。   |

#### 【地震時の対応マニュアル】

#### 2 帰宅困難者(キャンパス滞在者)へのルール

| 項目     | 帰宅困難者への対応ルール  |
|--------|---|
| 部屋の特定  | 新耐震基準建物の各教室等に、各学部・学科ごとに指定します。(地震時の対応マニュアル：資料1「キャンパス別避難場所としての建物収容人員」を参照)                       |
| 備蓄品の配布 | 最初に提供する備蓄品は、原則、毛布又はアルミ製ブランケット1枚、アルファ米1袋、500ml水ペットボトル1本となります。各キャンパスには全学生、教職員の3日分の食料等が備蓄されています。 |
| 備品の提供  | 各キャンパスには、発電機(ガソリン、ディーゼル、カセットボンベ)や可搬型蓄電池が配備され、照明、煮炊き用レンジ、携帯電話の充電等に活用できます。                      |
| トイレの利用 | 水栓トイレ使用不能時は、マンホールトイレ、簡易トイレを準備します。<br>・建物内のトイレに「仮トイレ(凝固式)」(男女別)の候補地を決め、周知します。                  |



以上が本学園の震災時の帰宅者及び帰宅困難者へのルールとなります。大地震発生に備え、事前の心構えや個人としての準備、対策をよろしくお願いいたします。

なお、この記述については、地震時の対応マニュアル(災害に備える国土館手順書)(令和2年度)に記載されていますので、この機会に是非ご確認をお願いします。

総務課 石井 文昭

## 防災コラム

## 液体ミルクをご存じですか



日本で液体ミルクが目されたのは2016年の熊本地震の時です。海外からの支援物資として届けられました。子どもはすぐに大きくなります。赤ちゃんの食事がミルクのみの時期も半年程度です。もし、この時期に災害が発生したら赤ちゃんの食事はどうなる事でしょうか。災害のストレスで母乳が出にくくなったり、避難所での授乳も周囲の目が気になります。粉ミルクがあっても調乳の為のお湯が必要となります。いつでもどこでも誰にでも簡単に飲ませることが出来るのが、液体ミルクです。

生後半年を過ぎたら、ミルクだけでなく普段から食べ慣れている市販の離乳食も備蓄すると安心です。普段は、完全母乳育児の方や、手作りの離乳食を食べさせている方も、いざという時の為に、液体ミルクや市販の離乳食を試しておくで安心です。また日常生活でも液体ミルクや市販のベビーフードを使用する事で、日々の育児にも余裕が生まれるようになります。幼児の子育てを卒業した先輩ママからのアドバイスです。

防災・救急救助総合研究所 準職員 水本 花子